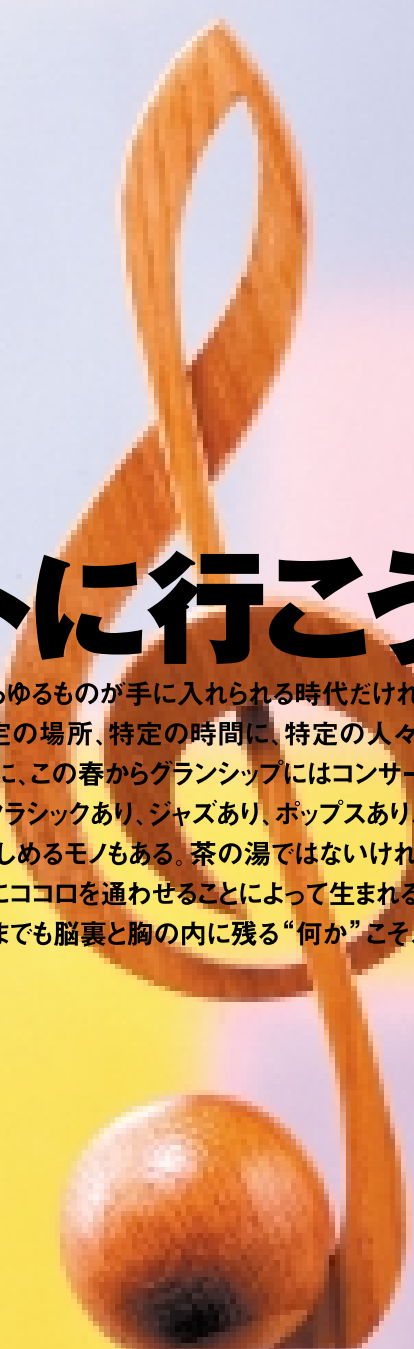




What a wonderful
Concert!

コンサートに行こう!

コンサートに行こう。家に居ながらにして、あらゆるものが手に入れられる時代だけれど。CDも、DVDも、レーザーディスクも、臨場感たっぷりに楽しませてはくれるけれど。特定の場所、特定の時間に、特定の人々のためだけに提供される音楽には、計算できない楽しみが満ちているから。うれしいことに、この春からグランシップにはコンサートが目白押し。現在、決定しているコンサートだけを眺めてもかなりの多彩ぶりである。クラシックあり、ジャズあり、ポップスあり、オペラあり。話題の必聴モノもあれば、グランシップならではのオリジナルな仕立てで楽しめるモノもある。茶の湯ではないけれど、コンサートもまた「一期一会」。そのひとときが大事なのだ。空間と時間を共有し、共にココロを通わせることによって生まれる震えるような感動、沸き立つ喜び、静かな余韻…。カタチとしての手触りはなくとも、いつまでも脳裏と胸の内に残る“何か”こそ、コンサートの醍醐味なのではないだろうか。

*東京スカパラダイスオーケストラ 4/26 *京フィル家族deピクニックコンサート 5/3 *みるコンサート「竹取物語」 5/5 *ジャズ・ライブ区 日野皓正 5/25 *岩城宏之&オーケストラ・アンサンブル金沢 6/5 *「サーカス」コンサート 7/8 *オペラ「セヴィリヤの理髪師」 9/15 *Moving Music Express 2001 9/23 *ジャズ・ライブX 仙道さおり 9/28 *グレン・ミラーオーケストラ ダンシングコンサート 12/5 *NTT西日本 N響コンサート 12/9 *ジャズ・ライブX TOKU 12/13 *「スウィングル・シンガーズ」クリスマス・コンサート 12/23

コンサートに行こう!

What a wonderful Concert!

“いつでも行ける”はマチガイ。
“今しか聴けない”と思うべし。

そもそもコンサートとは、複数の演奏者による合奏を意味するもので、独演会や少人数のアンサンブルなどはリサイタルというらしい。ちなみにコンサート(=concert)には、致とか協力という意味もある。

さて、行く行かないは別として、今ではコンサートなど少しも珍しくない世の中だが、実は十七世紀末まではヨーロッパでも主に教会か、あるいは貴族や富豪の邸内での私的な集まりでしか行なわれなかったため、一般市民が正統的な音楽を聴ける場は教会しかなかった。もちろん町角や酒場では、今でいうライブが夜毎行なわれていたが、それらは広く聴

かせるためというよりは、自分たちが歌い、奏でて楽しむためのものだったから、今の時代のように、多種多様なコンサートの中から好きなものをチョイスして出掛けていけることはとてもシアワセなことなのだ。

ただ、“いつでも行ける”と思うと、これがなかなか行けない。しかし、CDなどと違ってコンサートこそナマモノ。実際はどれも“今しか聴けない”ものである、ということを知っておくべきだろう。しかも決して“通”である必要はない。まっさらな気持ちで楽しみながら思いがけない感動に出会えるのも、コンサートならではの魅力なのだから。



A

POA MUSIC FOUNDATION presents

東京スカパラダイスオーケストラ
PUBLIC CITY HALL SERIES 2001; A SKA ODYSSEY

04/26(土) PM6:30開場 PM7:00開演

全席指定(税込) 5,000円

チケット
発売中

大ホール・海

世界のライブバンド“スカパラ”がEUROツアーに続いておとどけするのは、ハイパーな完全オープンスタイルのライブパフォーマンス。オープニングアクトには堂島孝平×GO-GO KING RECORDERSも登場。ちなみに“スカ”とは'60年代初めにジャマイカに生まれたオリジナルビート。スッチャ、スッチャ……という裏打ちのリズムを聴けば、カラダが動きだすこと間違いナシ。

スカパラ初心者もウェルカム。踊れる!ハジける!ダンス天国。



member : NARGO・北原雅彦・冷牟田竜之・GAMO・谷中 敦・
沖 祐市・川上つよし・加藤隆志・大森はじめ・茂木欣一

行こう!

スカパラのベース●川 上 つ よ し から H O T V O I C E

「スカパラは去年“Gunslinger Tour”という30本に及ぶ国内ツアーと5カ国を巡るヨーロッパツアーを行い、お陰さまで大成功をおさめることができました。いわゆるスタンディングのクラブツアーでしたが、スカパラは今回の〈グランシップの〉ようなホールでも小さなクラブと変わらぬテンションで、なおかつ広いステージを有効に使ったスカパラならではのパフォーマンスを楽しんでもらえるものと確信しています。都市部のライブハウスに行く習慣のない人達にもぜひ見てもらいたいと思います」

- ♥ムードたっぷり
- ♣通もナットク
- ♣家族でエンジョイ
- ◆スカッとできる
- ★癒し系
- ☆ストーリーもの



楽器の音色に耳を澄ませば、
いろいろな風景が見えてくる。

★ B グランシップたのしい音楽会 家族deピクニックコンサート

05/03(祝) PM2:00開場 PM2:30開演
全席自由 一般(高校生以上) 2,000円
こども(4才~中学生) 1,500円
※当日券100円増

チケット
発売中

中ホール・大地

司会・ソプラノ・語り:島崎政子 管弦楽:京都フィルハーモニー室内合奏団 **プログラム**〈第1部〉名曲集(チクタクポルカ、熊蜂の飛行、音楽物語「きつねのおきやくさま」他)〈第2部〉楽器の紹介(第3部)ゆかいな曲だよ(シュッポッポバンド、聖者の行進、メドレーほか)ヴァイオリンが熊蜂の羽音を奏でたり、トロンボーンやホルンが楽しくポルカを演奏したり、一緒に歌ったり。子供も大人も耳慣れた名曲が次々と登場。ソプラノと語り、そして管弦楽の演奏でお届けする、音楽物語「きつねのおきやくさま」も聴きどころの一つ。



こんな感動、初めて！
美しい影絵で綴られる、
かぐや姫の物語。

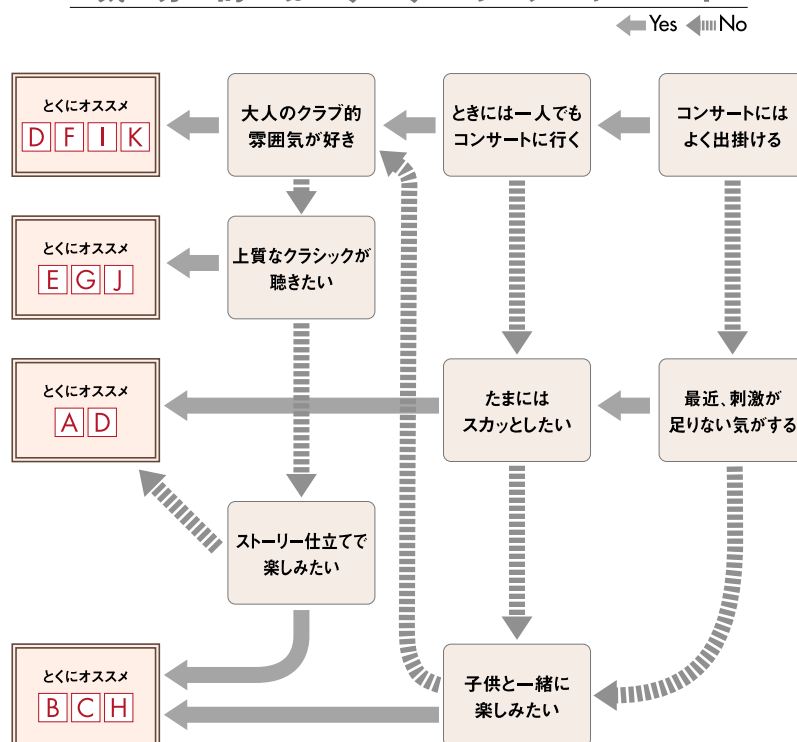
☆☆☆ C みるコンサート竹取物語

05/05(祝) PM2:00開場 PM2:30開演
全席自由 一般(高校生以上) 1,500円
こども(4才~中学生) 1,000円
※当日券100円増

中ホール・大地

影絵操作:影絵劇団かしの樹 **プログラム**〈第1部〉影絵と和楽器のジョイントコンサート、水の変態・春の海・組曲「月の夜の物語」〈第2部〉みるコンサート竹取物語
和楽器とシンセサイザーによるオリジナル組曲、一人十役の見事な語り、そして、鮮やかな影絵劇が舞台上に織りなす幽玄の世界。動く絵巻のような美しい影絵とともに、日本人なら誰もが知っている古典文学「竹取物語」が幻想的に綴られる。

気分的 おすすめ チャート



◆ D ジャズ・ライブIX 日野皓正

05/25(金) PM6:00開場 PM7:00開演
全席指定(1ドリンク付) 4,800円
中ホール・大地

チケット
発売中

地元ジャズファンにはすっかりお馴染みとなったグランシップの「ジャズ・ライブ」。年に4回、週末の夜に開かれるこのライブに、ついに“世界のヒノテル”が登場。スタイリッシュで、ハートがあって、深くて…。年齢を重ねるほどに魅力を増す彼のトランペットは必聴。ホワイエで1ドリンク楽しめる、というのもうれしい。(P9~関連記事あり)

ジャズ・ライブX	仙道さおり	09/28(金)
ジャズ・ライブXI	TOKU	12/13(木)



金曜の夜のお楽しみに、
ついに“ヒノテル”が登場だぞ。

♥ムードたっぷり ♣通もナットク ♡家族でエンジョイ ◆スカッとできる ★癒し系 ☆ストーリーもの

What a wonderful Concert!

たとえば、開演ギリギリあるいは開演後に到着して、しかも列の中央の席だったりすると、道を空けてもらわねばならない。できれば五〜十分位前には席に着いていたいところだが、止むを得ぬ場合はせめて恐縮して席に着くようにしよう。また、演奏途中にトイレに行きたくなったり、気分が悪くなった場合も同じ。ただし、曲（または楽章）の終わりま

では我慢を。服装については、最近ではアーティストのほうから「赤いコスチュームで」などと指定することもあるが、別に決まりナシ。クラシックでもとくに正装を義務づけた「ガラ・コンサート」以外はカジュアルでも結構。いずれにしても香水、飲酒、イビキなどは控えめに。コンサートに通い馴れた人のことをクラシック界では「コンサート・ゴースト」などと呼ぶが、通い馴れてるからといってマナーがいいとは限らない。プログラムが終わるやいなや花束を抱えてステージに群がる人達がいるが、マナー的には終演後に渡す、スタッフに託すのがベスト。最近ではホール内への持ち込みを断ることも多い。

香水、飲酒は控えめに。
遅れたら、恐縮して着席を。

コンサートのマナーと二口に言っても、

刺激を求めたタテノリ型のコンサートと、ひたすら静かに聴き入るコンサートとでは、観客のあるべき姿は当然異なるが、要するに他人への迷惑は最小限に、自分自身は最大限に楽しめればいい。

コンサートに通い馴れた人のことを

では我慢を。服装については、最近ではアーティストのほうから「赤いコスチュームで」などと指定することもあるが、別に決まりナシ。クラシックでもとくに正装を義務づけた「ガラ・コンサート」以外はカジュアルでも結構。いずれにしても香水、飲酒、イビキなどは控えめに。

コンサートに通い馴れた人のことを

クラシック界では「コンサート・ゴースト」などと呼ぶが、通い馴れてるからといってマナーがいいとは限らない。

プログラムが終わるやいなや花束を抱えてステージに群がる人達がいる

が、マナー的には終演後に渡す、スタッフに託すのがベスト。最近ではホール内への持ち込みを断ることも多い。

夏の夜、優しく、切なく響く、アコースティック・ハーモニー。



♥★

F 「サーカス」コンサート

07/08日 PM6:30開場 PM7:00開演

全席指定 4,300円

中ホール・大地

4/14

チケット発売

member: 叶 高・叶 正子・原 順子・叶 央介

『ミスター・サマータイム』でのデビュー当時は、3人姉弟十従姉というユニットのユニークさで話題を集めた。その後メンバーは変わり、現在は叶央介と原順子の結婚により全員ファミリーに。時代やジャンルを超えたスタンダードナンバーを、ナチュラルでパワフルなサーカス・ハーモニーでたっぷり。

コンサートに行こう!

クオリティの高い演奏に定評あり。
聴きごたえのあるプログラムで。



♣★

E 岩城宏之&オーケストラ・アンサンブル金沢

06/05日 PM6:30開場 PM7:00開演

全席指定

SS席 6,000円 S 席 5,000円

A 席 3,000円 学生席 1,000円

※当日券500円増

チケット
発売中

中ホール・大地

指揮: 岩城宏之 箏: 福永千恵子 **プログラム** 〈一柳 慧〉箏と室内オーケストラのための「始原」 〈ベートーヴェン〉交響曲第1番ハ長調 op.21、交響曲第5番ハ短調「運命」 op.67 音楽監督に岩城宏之を迎え、'88年に日本最初のプロの室内オーケストラとして発足した オーケストラ・アンサンブル金沢は、メンバーの1/4が外国人。専属作曲家による現代曲委嘱初演制度を実施しており、今回も'89年に初演の一曲（一柳慧作曲）が演奏されるのでお楽しみに。

I グレン・ミラー オーケストラ ダンシングコンサート

12/05日 (開場・開演時間未定)

全席指定 (料金未定)

大ホール・海

9/15

チケット発売

テーマ曲ともいうべき『ムーンライト・セレナーデ』の甘くムーディなメロディが流れてくると、優しくロマンティックな気持ちになる。音楽っていいなと思う。グレン・ミラーの音楽はジャズとか、ダンス・ミュージックというよりも、ミラー・サウンドと呼ぶのがふさわしい。当日は1階フロアがダンスホールに。生のバンドをバックに踊るのも素敵。



世界で最も愛される
ビッグバンドと共に、
スウィングな夜を。

大空間がステージになる。
スタジアムになる。
動く音楽パフォーマンス



◆◆☆

H Moving Music Express 2001

09/23祝 (開場・開演時間未定)

全席指定 (料金未定)

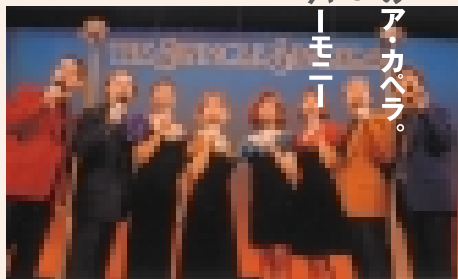
6/23
チケット発売

大ホール・海

総合演出:山崎昌平

一昨年に開催された第1回は予想以上の反響を得た。歌と語り、踊り、演奏…さまざまなジャンルが一つになり、紡ぎだされるストーリーに、そして、集団演技ならではの美しさと沸き立つような強烈なエネルギーに観客は圧倒された。“動き”の総合芸術パフォーマンスが、壮大な音楽スペクタクルが再びグランシップに登場する。

これぞ！最高のアカペラ。
Xマスにおくる
パーフエクト・ハーモニー



♥♣★

K 「スウィングル・シンガーズ」 クリスマス・コンサート

12/23祝 (開場・開演時間未定)

全席指定 (料金未定)

10/14
チケット発売

中ホール・大地

'60年代にダバダバダ…のスカットでバッハを歌い、世界中をアツといわせたアカペラ・コーラス・グループがいよいよグランシップにお目見え。クリスマス・ソングからバッハやモーツァルト、ビートルズ、映画・ミュージカルの名曲まで、完璧なハーモニーを聴かせてくれる。

♣★
G

モーツァルティアーデ管弦楽団 バーデン市立劇場合唱団

オペラ「セヴィリヤの理髪師」全3幕 Il Barbiere Siviglia

09/15祝

PM6:30開場 PM7:00開演

全席指定 (料金未定)

6/17
チケット発売

中ホール・大地

製作協力:ウィーンの森バーデン市立劇場
日本人が観たいオペラのベスト10に入る名作がロッシーニ作曲のこれ。伯爵と娘の恋物語で、アレコレと策を練って二人をとりもつのが、タイトルにある理髪師である。演奏、歌ともに錚々たるバックアップで聴きごたえ、見ごたえ十分。明るく楽しくわかりやすい作品なので、オペラ初心者にもおすすめ。



明るい恋物語を世界屈指のステージで。

「友の会」の会員になって
いい席をおトクにゲットしよう。

コンサートに行きたい。それだけでもいい席で…となると、いかに情報を収集するか、チケットを早くおさえるか、が勝負になる。プレイガイドや情報誌をマメにチェックするのはもちろんだが、グランシップ発のコンサートやイベントに関しては、本誌『G』や隔月発行の『ON the board』(共に無料。グランシップのインフォメーションカウンターなどでもらえる)に紹介されているのでぜひ参考にしよう。グランシップの場合、開催のちょうど3カ月前のチケット発売が基本。しかし、それよりも早くいい席をゲットする方法もある。それは「友の会」の会員になって、先行予約という特典を生かす方法である。会員になると

チケットをいち早く、しかも電話で予約できるだけでなく、なんと料金も10%オフ。さらにチケットを有料で自宅に送付してもらえ。 (詳しくはP19参照)
また、コンサートに出掛けたいけれど、ウチには小さな子供がいるから…という人は、グランシップの託児サービスを知っておくと便利。グランシップ内の託児室には絵本や玩具、ベッド、トイレ、バスが完備。保育士資格のある専門スタッフがいて、公演終了まで子供(2歳〜小学校就学前の幼児対象)を無料で預かってくれる。コンサートの告知チラシにサービスの有無が記載されているのであらかじめご確認を。

♣★
J

第9回 NTT西日本 N響コンサート ～グランシップ開館3周年記念～

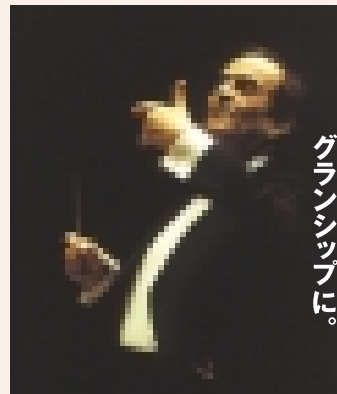
12/09日 (開場・開演時間未定)

全席指定 (料金未定)

未定

大ホール・海

指揮:シャルル・デュトワ **プログラム** 〈ロッシーニ〉 歌劇「ウィリアム・テル」序曲 〈ベートーヴェン〉 交響曲第7番イ長調作品92ほか
ご存知!日本最初のプロ・オーケストラで、歴代指揮者の名前を見てもクルト・ウェス、シュヒター、マタチッチ、ホルスト・シュタイン…と世界に誇る顔ぶれ。現在はシャルル・デュトワが常任指揮者とN響史上初の音楽監督を務め、高い演奏水準は国際的に評価されている。



世界に誇る日本のN響が
グランシップに。

日野皓正

ジャズという日常。

「昔はステージで燃え尽きたい、と思ってたけど、向こうの人は本当にリラックスして演奏してる。なにしろジャズってというのは日常だから。毎日いきり立って暮らしてられないもんね。だから、アメリカに行つてからは自然な感じでラクに演れるようになったかもしれない」

マイルスのゲーム。

ミュージシャンに年齢は関係ないけれど、それでも彼の実年齢を聞けば、驚くに違いない。しかも放つ空気はおよそジャズのイメージとは程遠く、圧倒的に明るくてヘルシー。そして、もちろん彼ならではのサービスマもあるのだろうが、よく笑う。彼が敬愛するといふマイルス・デイビスが夜の帝王なら、彼は名前通りのサントデイ。“世界のヒノテル”はそれはそれは魅力的なスマイルで、周囲を明るく照らしてくれるのだ。

——トランペットは九歳から、それもクラブダンサーであり、トランペッターでもあったお父様から手ほどきを受けられたとお聞

きしましたが、かなりの英才教育だったんですか。

「それが全然、譜面の読み方や教則本のほんの最初の部分くらいは教えてもらってたけど、あとはジャズ学校へ行けど。当時かまやつひろしさんのお父さんが校長をしてた日本ジャズ学校というのが大久保にあったの。学校が終わったら、そこに行かなくちゃいけないから、運動会の練習なんかも出ないわけ。先生のほうもどっせお前はこの道で食べていくんだろっからって、目をつぶってくれて。なにしろ中学生の時にはすでにキャバレーや米軍キャンプで演ってたからね。でも、満足な音は出せなかった。楽団員にジューズを配ったり、坊やバンドボーイ(半分トランペット半分みたいな立場でしただね)」

——最初のお仕事を覚えてらっしゃいますか。

「立川の昭和基地へ通っていたんだけど、海軍音楽隊のトランペッターがバンドマスターという十人程の編成のダンスバンドがあつて、そのセカンドトランペッターとしての仕事が最初。学校から帰ると髪にボマードつけて、親父の背広を借りて出掛けるわけ。十四歳位だったんだけど、とてもそんな年齢には見えなかったと思うよ。朝になると髪を洗って、結襟を着て、ちゃんと原宿の中学校に行つた。でも、お弁当を食べ終わったらあたりからもう眠くて眠くて、とても勉強どころじゃなかったね笑」

——その頃はもうトランペットで生きていくんだと決めてらしたのですか？

「どうかな。ただ欲が出てきて、アドリブを



したいと、アドリブでジャズの精神だからでも、難しいからできないんだね。で、十七歳の時、チット・ベイカーやマイルス・デイスの易しいレコードを買ってきて、それをコピーし始めて。リール・トゥ・リールで回転を半分に落とすと、オクターブ下がるでしょ。ヴァ、ヴァ、ヴァ……と音を一つずつ拾うていて、次の音を予想したりして。あつた、あたななんて喜んだらね。スラップバックも四、五冊あつて、トランペッターの写真ばかり切り抜いて。マウスピースのあて方なんかもそれを見て研究してましたね」

——そつた懂れのジャズプレイヤーとやがて共演したり、親交を深めたりされるわけですが、確かマイルス・デイスとも何度か会われていますよね。

「彼はすごくインテリジェンスのある人で、いつもゲームを仕掛けてくるの。昔、ニューヨークのクラブのセブンス・ブギー・サウスにデープ・リープマンのバンドで出てる頃、デープがマイルスを見舞いに行くけど、何か訊きたいことはないかって言つたら、ハイトーンがうまく出ないから、どうしたらいいか訊いてくれ」と頼んだら、翌日デープがもうと下唇を使ってさ」とマイルスの

メセージを伝えてくれたんだよね。で何年かして、デープが今度はマイルスの家に見舞いに行こうと誘ってくれて、二人してハイネケンのビールを買って彼の家に行ったの。そしたら、こいつは誰だ? って聞くわけ。デープが「日野だよ」と言つと、そつたって言うて、いきなり、ヘイ、ビッチ(売女)！ って女の人を呼ぶの。とにかく口は最悪だから。(笑) で、懐中電灯を持って来させてね。というのも、真暗でテレビだけが点いてるような部屋だったから。なんとなつて彼は夜の帝王だし。(笑) で、いきなり僕の唇をライトで照らして、こいつは大丈夫だよ、って言うの。それで、なんだ、やっぱり僕のこと覚えてるじゃないかってね。それから、これはコルト・レーンがマイルスのバンドのメンバーの頃の話なんだけど、昔のメンバーだったソニー・ロリンズが演奏を聴きに來てたことがあつてね。するとマイルスはわざとコルト・レーンに「ニューヨーク(ソニーのこと)が聴いてるぞ」って耳打ちしてビビらせるの。で、演奏が終わると、客席に降りていって、今度はニューヨークに「コルト・レーン、凄いだろ」って囁いて、彼を焦らせるわけ。そつたゲームをい

つも楽しんでたね、あの人は」

インテリジェンスのある音楽。

——トランペットを手にして、かれこれ五十年ですね。アメリカで活動されたりして、ジャズとの向き合い方や音楽性などは変わりましたか。

「昔は入デージで燃え尽きたい、みたいなところがあったんだけど、向こうの人は本当にリラックスしてるんだね。なにしろジャズは日常だから。毎日いきり立って暮らしてられないもんね。だからアメリカに行つてからは自然なラクな感じで演奏するようになったかもしれないけど、自分の音とかやつてゐることは二十歳代と変わってないな。そりゃ昔のほうが指はよく動いたけど。(笑) ただ、柔らかなさというか、人を包む思いやりみたいなものは出てきてると思う」

——チット・ベイカーやサッチモのように、トランペットを吹きつつボーカルも、などと思われたことは？

「よくぞ聞いてくれました！(笑) 正直、懂れはあつたんですよ。それでね、自分でクリスマスソングを書いたの。女房に英語で詞を書いてもらつて。クリスマスのディナーショーで俺、歌つたらつてね。そつしたらドラムの弟が頼むから、やめてくれ」って言うわけ。で、悔しいから毎日カラオケに行つて、6時間、8時間と練習したんだけど、一向に上手くならないの。そのとき思ったね。神様や仏様がお前はまだトランペットが吹けるんだから、一生懸命吹いて皆に感動を与えろと。いつかショボくなって、プス

【ひのてるまさ】

ジャズ・トランペッター。タップダンサー日野敏を父に持ち、4歳からタップを、9歳からトランペットを学ぶ。13歳で米軍キャンプのダンス・バンドに参加。15歳でデビュー。67年初リーダー作『アローン・アローン・アンド・アローン』発表。68年日野皓正クインテット結成。ヒノテルブームを巻き起こす。75年渡米。80年米国CBSコロムビアと契約。89年には米国ブルー・ノート・レーベルと日本人アーティストとして初めて契約。アルバム『ブルーストラック』は、日本はもとよりアメリカでも高く評価される。今や国際的に活躍し、渡辺貞夫らと共に日本ジャズ史に残る人物の一人。主なアルバムに『シティ・コネクション』『ダブル・レインボー』『トランス・ブルー』など。'42年東京生まれ。



ブスした音しか出せなくなったときにはちゃんと上手く歌わせてやるからと。そう言うてるんじゃないかってね。今もそう信じてるんだけど、去年、桃井かおりちゃんとのクリスマスコンサートとき、石井彰と多田誠司と三人で例のクリスマスソングをコーラスしたのね。そうしたら、ちょっと上手くなってるて皆が言うわけ。で、ざまあみろって思いつつ、そろそろ俺のラップもダメになるのかな、なんて思ったりして（笑）

——ジャズという共通言語を通して、まさにグローバルに活躍される日野さんですが、ご自身の音の中にふと日本人であることを意識することはありますか。

「それは意識しないわけにはいかない。やっぱり自分が育った環境、文化といったものは自ずと出てしまうものだから。お客がさっきの演奏はオリエンタルでいいね”って言うたりするんだけど、僕としてはグローバルなジャズとして書いてるつもりなの。でも、所々にそれが出てきちゃう。きつとたくあんの匂いか何かやしちゃうんだね（笑）しょうがないんだよ。それが僕なんだから。逆にそこが強みでもあるわけだし。でも、日本人であることを売り物にするような、そんなことはしたくない。絶対にね」

——四十代あたりから、しきりに「インテリジェンスのある音楽をやりたい」とおっしゃってるようですが。

「馬鹿じゃ音楽はできないでしょ。仲間の心や空気が読めなくちゃできないから。自分のことしか考えてない音楽をやる人がいるけど、共通語をしゃべってくれと言いたいね。僕の理想というのは高いところにある。この宇宙は神か仏か誰が創造したのかわからないけれど、音とか色とかさまざまなものが存在して、その自然なバランスの上に成り立つ空間において、できるだけ少ない音で人の涙を誘うような音楽ができたら最高じゃないかと。そして、常にそう思ってるステージに立つのについたくさん余計な音を出してしまう。死ぬまで決して到達できない領域かもしれないけれど、少しずつ自分の理想に近づけていけたらと思うわけです」

——この5月にグランシップで日野さんの演奏が聴けるといふことで、とても楽しみになんですが、ジャズクラブと今回のようなホールまた野外というように、器によて心持ちが違ったりはされませんか。

「それはないね。音を出したらコンセントレーションして、チカラを抜いて、無になれさえすれば、いい演奏になるはずだから。そういう意味では野外はやや難しいかもしれないけれど。目がいるんなところに行ってしまうからね。ただ、どういう場所でも、その空間に身を委ねて、何も考えずに責任をもって音を出す。それだけを心がけているし、そうすれば何事もつましくはずだから。ぜひ、楽しみにしてください」



チケット発売中

ジャズ・ライブ

日野皓正

2001年5月25日（金）

開場PM6:00 開演PM7:00

会場:グランシップ 中ホール・大地

全席指定（1ドリンク付・税込）4,800円

関連記事P3～もご覧ください。